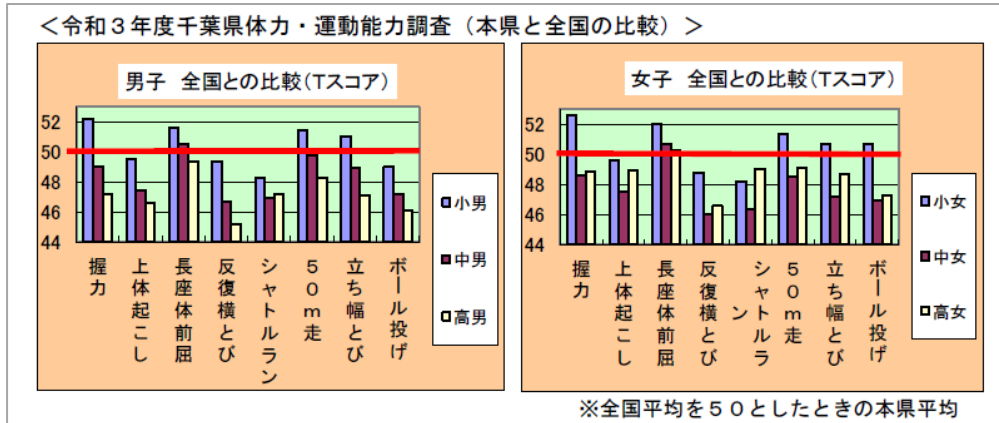




南房総の風し

教科体育の指導充実に「新しい体育の展開」の活用を!

以下のデータは令和3年度の千葉県・体力運動能力調査の結果です。全国的にも体力の低下が懸念されていますが、本県全体でも「小学校の女子」以外は多くの種目で全国平均を下回るという残念な結果となっています。児童生徒の体力向上については、待ったなしの取組が求められています。



まずは、各校で体育の「授業改善」に力を入れていきましょう。児童生徒にとって、**週3回の体育科・保健体育科の授業実践はかけがえのない体力・運動能力づくりの場**であるとともに、**体力・運動能力の向上に主体的に取り組むことができる能力・態度・習慣づくりの場**でもあります。教科体育指導の充実が重要であると同時に、学校における体育・健康に関する指導の中核とも言えます。

本号ではより一層の「教科体育指導の充実」に向けて、千葉県教育委員会で作成している「**学校体育指導資料第38集（小学校編）・第39集（中学校編） 新しい体育の展開**」について紹介をします。学校に訪問させていただいた際に紹介をすると「初めて知りました!」という声も聞かれます。ぜひ、この資料をもとに児童生徒、学校、地域の実態等をふまえた工夫改善を加えて活用し、児童生徒の元気いっぱい・汗いっぱいの体育学習を展開していきましょう。

1 学校体育指導資料「新しい体育の展開」を手元に準備しましょう!

まずは、印刷したり、タブレットやパソコンにダウンロードをしたりするなどして、いつでもどこでも開けるようにしておきましょう。

<p>学校体育指導資料第38集<小学校編></p> <p>新しい体育の展開</p> <p>千葉県教育庁 教育振興部体育課 令和2年4月</p>	<p>↑小学校編の各指導計画が選択できるページが開きます。</p>	<p>学校体育指導資料第39集<中学校編></p> <p>新しい体育の展開</p> <p>千葉県教育庁 教育振興部体育課 令和3年4月</p>	<p>↑「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した体育授業の展開例」が開きます。</p>
---	-----------------------------------	---	--

2 「小学校編」～低学年・中学年・高学年別、領域別の資料掲載～

ページ〈中―23〉

単元名 マット運動「側方倒立回転・補助倒立ブリッジ」

1 運動の特性

2 単元の目標

3 評価標準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の基礎的・基本的な技能の習得	①空中に手を支えて、ブリッジをしやすい支え方を理解しているとともにその技を行うことができる。	②側方倒立回転の行い方を理解しているとともに腰を伸ばした姿勢で行うことができる。	①マットの正しい使い方や試技をする際の持ち方、技を転載するときのきまりを守らうとしている。

4 指導と評価の計画の例

単元の目標	1	2・3	4・5・6・7	8
10 オリンピックジャンプ ・学習の楽しさをもつ ・実技練習を行う ・役割分担	ねらい① ・補助倒立の練習をする。 ・ブリッジの練習をする。	ねらい② ・連続技を連続させる。	ねらい③ ・連続技を連続させる。	まとめ

小学校編では、低学年・中学年・高学年に大きく分かれています。その中で、単元ごとに「運動の特性」「単元の目標」「評価規準」「指導と評価の計画の例」が1ページにまとまっています。

「指導と評価の計画の例」にそって各時間の展開例や技能指導のポイントが詳しく掲載されています。学習カードの例示もあります。

ページ〈中―26〉

単元名 マット運動「側方倒立回転・補助倒立ブリッジ」

1 運動の特性

2 単元の目標

3 評価標準

4 指導と評価の計画の例

時間	学習内容と活動	指導・支援(○) 評価(※)	用具・資料
0	1 準備運動を行う。 マットの準備を行う。 感覚づくりの準備運動を行う。 例) 手押し車 壁倒立 かえるの足打ち ブリッジ 背支補助立 体の確認【体方向上(大きく関節を動かすために)のページ]	○きだしなみ顔色等の観察。 ○準備早く、協力して、安全に行えるよう促す。 ○腕支補助感覚や逆さ感覚が身に付くようにする。	マット
10	2 ねらい①を練習する。 補助倒立ブリッジができるようになるには、どこを補助すればいいだろうか。 足 ひざ 背中 補助者は立人で行い、一人は両腕の背中 中に手を支えて、ブリッジの姿勢をつくり やすいようにする。 【知識・技能】 ○補助倒立ができない児童には逆さまで体を支える運動遊び 等と行わせる。	○実習調査で補助倒立とブリッジの いずれも上手だった児童に對し、 教師が補助の距離を見せる。	
25	3 ねらい②を練習する。 連続技に挑戦しよう。		
40	4 学習のまとめをする。 5 整理運動をする。	○できるようになったことや、 友達との動きのよさをまとめる。	

3 中学校編～領域別の「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した体育授業の展開例」掲載～

〈ページ 跳び箱運動 1〉

単元名 跳び箱運動(跳び箱運動)

1 単元の目標

2 評価標準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の基礎的・基本的な技能の習得	①跳び箱運動には多くの「技」があり、これらの技の習得は、その技が得意になるまで繰り返して練習することによって、身につけていくことができる。②自分の持っている技の強弱を判断するための自分の動き方のポイントがあることを理解し、学習した基本技を効果的に練習することができる。	①自分の持っている技の強弱を判断し、適切な練習方法を提案し、仲間と協力して練習することができる。②自分の持っている技の強弱を判断し、適切な練習方法を提案し、仲間と協力して練習することができる。	①跳び箱運動の学習に取り組む姿勢が、授業中や練習中に表れている。②自分の持っている技の強弱を判断し、適切な練習方法を提案し、仲間と協力して練習することができる。

第5章は「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した体育授業の展開例」です。A体づくり運動～E球技までの単元目標や評価規準例が単元ごとにまとめられています。

〈ページ 跳び箱運動 2〉

3 指導計画(8時間)

時間	学習の進め	単元	評価
1	1 集合・整列・整隊を行う。 ・声かけの確認をする。 ・準備運動を行う。 ・跳び箱(小・中・大)の確認 ・本時の学習目標を確認する。 2 準備運動を行う。 ・準備運動、二人組でストレッチを行う。 ・胸に手を置き姿勢のストレッチも入れる。 3 補助運動を行う。 ・手押し車、壁倒立、側方倒立(★) ・ひざ・足・腕ジャンプ・腕倒立(★)を行う。		
2	【ねらい1】 基本的な技を安定したフォームで跳ぶことができる。 【学習課題】 跳び箱運動の学習の仕方を見付けよう。 ○学習目標 1 オリンピックジャンプ (1) 授業の約束 (2) 準備、片付けの仕方について (3) 準備運動・補助運動の仕方について (4) 安全の確認・声かけ 2 両足単歩の補助 (1) 両足の着地、かかと足踏み (2) 台上補助(両膝上補助) (3) 両足補助(両膝上補助) (4) 両足補助(両膝上補助) 3 準備運動を行う。 4 補助運動を行う。 5 学習の約束・反省をする。 ・実習の振り返り ・声かけの確認 ・協力して準備よく片付けを行う。		

A～Eまでの代表的な運動種目の「指導計画」も掲載されています。主な学習活動の事例や、発問例とその意図・解説などが例示されています。

〈ページ 跳び箱運動 9〉

それぞれの技のポイントについてまとめてみよう。

開脚ブリッジ	台上補助

中学校編では、代表的な運動種目の学習カードの例示なども数多く掲載されています。



その他、文部科学省やスポーツ庁のホームページを検索すると、体育指導に関する資料が各種掲載されています。資料等を積極的に活用し、全ての児童生徒が、スポーツの楽しさや喜びを味わい、自発的・自主的に運動する体育学習を展開していきましょう。